

埼玉の 暮らしと 社会保障

2024年11月1日発行 第343号
 (毎月1回発行)
 発行 埼玉県社会保障推進協議会
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-1 2-8 自治労連会館1階
 TEL 048-865-0473 FAX 048-865-0483
 ホームページは「埼玉社保協」で検索ください

参加者とともに「平和を考える時間」に 埼玉高齢者大会



10月4日(金)に第29回埼玉高齢者大会が、県民健康センターの大ホールで行われました。参加者は、オンライン参加を含めて160人でした。

オープニングは、埼玉で有名なおやじバンド「Coffee Break」の演奏ではじまり、「イムジン川」などの曲と一緒に歌い心が癒される中で開会しました。そして、実行委員会を代表して、宇佐美年金者組合執行委員長のあいさつ、来賓を代表して埼労連の藤田議長からあいさつ、今回初めてとりくんだ、大会成功に協力をいただいた協賛団体の紹介がありました。

記念講演では、ピースボートの共同代表の畠山澄子さんが「世界から見た日本の平和」をテーマに、お話をされました。冒頭に畠山さんは、「私は地球一周の船旅をコーディネートするピースボートというNGOで働いています。とっても恵まれたことに、仕事で世界をたくさん回ることができ、その中で世界の色々な人と出会いながら平和のことや戦争のことを考えています。最近は平和というより戦争のことを考える機会が多く、皆さんと一緒に考える時間にできたら思っています。」とあいさつ。ピースボートは、今年で41年目を迎え、船旅を通し、「顔の見える国際交流、国と国の利害を超えて人をつないでいく、その先にうまれる人の関係が、きっと平和のタネを撒くと思っ続けていること。核兵器禁止条約にもふれ、条約は核兵器という兵器そのものを非人道的なものとはっきり言っていること。この条約が出来た過程は、広島、長崎の人たちの被爆証言であり、たゆまぬ運動であり、それだけではなく、世界各地の人たちが、核兵器がある限り自分たちも核被害者だし、核被害者は生まれ続けるのだから言い続けたことが、この条約につながった。世界を変えていくのは最終的には 大国や国

ではなく、市民運動や、市民が声を上げる、地道な表現交流、子どもたちに戦争の話をする、原爆の話をする、そういうことのどれが欠けていてもこの条約はできなかった。」と一人ひとりの活動の大切を話されました。

最後に、現在起きている、ロシアのウクライナ侵攻が2年を超え、イスラエルによるパレスチナのガザ地区への侵攻が1年たつなかで、本当にできることが少ないけれど、「ノー」ダメだと言いつけることがスタート。ノーと言える仲間を増やしていく、やっぱり、国際法とか国連とかを信じ続けるしかない。そういう道を取るべきで、政府、国会議員、地方議員に訴えていかなければいけない。私たちは、戦争ではなく平和を取りたい、世界に平和が訪れるための外交をしてくれる政治家を望んでいる。そういうことを今度の秋の総選挙で見せていきたいと話しをされました。

午後からは、4つの分科会がおこなわれ、①映画「ぼけますからよろしくお願ひします」、②マイナ保険証について、③平和問題、④貧困の実態シンポジウムを行いました。

参加者の声を紹介しますと「私がすべきこと、日本がすべきこと、戦争に向かって進む国ではなく、話し合いによる紛争解決になるように」、「孫たちが世界に目を向ける人になって、社会をいい方向に変えることに希望を持ちたい」、「大変良かった。平和の準備に努めたい」、「問題だらけのマイナ保険証、医療はいのちを守るとりで、医療を安心して受けられる制度に」、「継続は力、来年は記念すべき30回、参加者をもっともっと増やしていきたい。」参加されたみなさんお疲れさまでした。
 (埼玉高齢者大会実行委員会 事務局 段 和志)

11月11日は、「いい介護の日」

介護・認知症 なんでも 無料 電話相談

～ ひとりで抱えこまないで ～
 相談することで心がふっと軽くなりますよ

11月11日(月)10時～18時
0120-110-458

介護・認知症なんでも無料電話相談には、介護の専門家が対応します。プライバシーは厳守します。
 主催 中央社保協・認知症の人と家族の会

2024年総選挙の結果

金権腐敗政治に審判、与党大敗！

10月27日に投開票で行われた第50回総選挙では、自民、公明の与党は、公示前の279議席から215議席へと大きく減らし、過半数(233議席)割れとなり歴史的な大敗に追い込まれました。自民党よる「政治とカネ」金権腐敗の政治に、国民の厳しい審判が下されました。これは、国民が自民党政治に代わる新しい政治を求めているという結果です。

自民党の裏金事件に関わった46候補(非公認など12人を含む)のうち、28人が落選し、現職閣僚2氏も落選。56議席減となった自民党は、執行部の責任を問う声が上がっていますが、石破首相、森山幹事長を続投する意向を表明しています。公明党も石井代表が落選するなど、8議席減らし24議席に後退しました。立憲民主党は50議席増の148議席、国民民主党は21議席増の28議席、れいわ新選組は6議席増の9議席となりました。参政党と日本保守党はそれぞれ3議席を得ました。

「裏金問題や非公認候補への政党助成金2000万円の支給」スクープし、自民党を過半数割れに追い詰めた原動力となった日本共産党は、2議席減の8議席へ後退をしましたが、オール沖縄でたたかった沖縄1区の「平和への議席」を守ったことは大きな意義があります。

	当選者数	選挙区	比例区	公示前
自民党	191	132	59	256
立憲民主党	148	104	44	98
日本維新の会	38	23	15	43
公明党	24	4	20	32
日本共産党	8	1	7	10
国民民主党	28	11	17	7
れいわ新選組	9	0	9	3
社民党	1	1	0	1
参政党	3	0	3	1
みんなの党	0	0	0	0
諸派	3	1	2	0
無所属	12	12	0	14
	465	289	176	465

今後、企業・団体献金の禁止、紙の健康保険証の存続、選択的夫婦別姓、気候変動問題など、国民の切実な願いにこたえるか否かが政党に問われることとなります。

わたしたち、社保協は、選挙結果を受けて、ただちに、主要政党に改めて、「公開質問状」の回答のお礼と「要望書」、マイナ保険証と現行の保険証を併用して使えるようにしてください。など4項目を届けました。この選挙結果は、国民的運動によって、政治を前向きに動かす可能性が大きく開かれてきています。引き続き、軍国主義の復活と社会保障削減をストップさせ、憲法25条を真に生かし、すべての人のいのちと暮らしを守る人権としての社会保障を実現するために、奮闘していくことが大切です。(埼玉社保協 事務局長 段 和志)

このままでは、介護保険は詐欺になる

第22回全国介護学習集会

10月6日に第22回全国介護学習集会が全労連会館2Fでオンラインと併用して開催されました。冒頭



のあいさつで、全労連の秋山議長からは、新しく首相になった石破氏の所信表明演説の中身は、防衛関係の方が多くを占めて、社会保障に関するものが少ない状況、労働者の分野では、デジタル化を進めて成長産業に人を移動させ、ほんとうに人手が必要とする介護・医療・福祉の分野に対して重視してない。介護に必要な人員はますます増えていく、人材を育成する姿勢が見えない。今度の総選挙で、社会保障を拡充させる議員を増やすこと、憲法を守って戦争させない国を続けられるように政治を変えようと訴えました。

記念講演では、「介護崩壊許さない！」をテーマに、暮らしネット・えんの代表理事の小島美里さんから講演がありました。介護保険制度が始まる措置時代から、ボランティアで活動し、そして、介護事業所をつくり、介護が必要な人たちを支えてきました。そして、2000年に介護保険制度がスタートし、この24年間で何が起きているのか丁寧に話しがありました。そして、介護保険のサービス利用の第一理由が認知症。また、高齢の家族、老々介護というケースも増えてきている。そして、介護職員、特にホームヘルパーの働き手の奪い合いが始まっている。介護の問題は高齢期の人だけの問題ではないことを伝えている。認知症予防じゃなくて、認知症の備えが必要なことも伝えていきたい。訪問介護の現場は老老介護で、老老ヘルパー介護で紙オムツつけて介護に出かけている。この実態もようやく知られるようになった。介護保険制度自体、崖っぷちに立たされ、追い詰められている。それは訪問介護の報酬改定でマイナスになったからです。この状態では介護保険は詐欺になる。

「訪問ヘルパーがいなくなる～在宅介護の終わりの始まり」の本の紹介と合わせて、現在のヘルパーの問題、について、5年先、10年先、60代、70代の人たちがいなくなったら、それを埋めるだけの人たちはいるのか、来てくれないっていうのが見えている。公費負担を今、5割から10パーセント上げて、介護職員の報酬を上げていくことが必要と力説。総選挙に向けて、「12項目の公開質問状」の先頭に国庫負担の10%引き上げを記述することを最後に報告して終了しました。特別報告として「報酬改定で混乱する介護現場の実態と課題」を現場と労働組合からの発言がありました。

つながることが力になる 共に生きる平和な社会を

第45回埼玉障害者まつり



45回目の障害者まつり、10月6日（日）、埼玉県障害者交流センターを会場に行われました。昨年を上回る3,100人の参加者でした。交流センターの裏の駐車場も午前中に埋まり、実行委員会で用意した2キロほど離れた資材置き場の臨時駐車場に30～40台、駐車することになりました。

実行委員会を軸に、「みんなでつくる」まつりを目指してきました。ここ数年、一桁の時があった実行委員会には、オンラインも含め20人程が毎回参加し、事務局会議も10人近くがオンラインでつながりました。

意見を出し合っただけでなく、今年のテーマは「つながることが力になる 共に生きる平和な社会」。元日に起こった能登の震災、さらに大雨で被害の広がり、一向に収まりをみせない戦禍、復興と平和への願いを込めたテーマになりました。メイン企画「暮らしの場を考える」も、打ち合わせを重ね丁寧につくっていきました。そのシンポジウム、7月にNHKの報道特集で専門家の方と待機者の調査をして報道した記者の方の参加もあり、オンラインを含め100人参加し、メイン企画にふさわしい内容でした。

「また、着ぐるみやらせてください」の常連さん。20か所を越える模擬店が参加しました。「今年も参加します。場所は同じところ」、参加するのを待ちわびるメールの文面に嬉しくなります。

中央舞台の作業所の仲間や障害児学校OB家族の太鼓の競演、プロレスも、熱戦で場内を沸かし、「また、来年」とリングから声が発せられました。

相談コーナーも同行支援について広めたいと参加してくれた事業所があったことも良かったです。

子ども広場にお化粧コーナー、事務局会議で出された企画です。新しく加わった事務局員もアイデアいっぱいでした。県からの補助金が減額になり、それが大きな負担になっています。担い手と財政、まつりの賑わいと裏腹に、今後の引き続きの課題であることは確かです。

（障害者の生活と権利を守る埼玉県民連絡協議会 事務局長 若山 孝之）

第56回埼玉生連定期大会

社会保障は、平和と民主主義のもとで成り立つもの



埼玉県生活と健康を守る会連合会（埼玉生連）は、10月20日（日）、第56回大会をさいたま共済会館で開催しました。思いがけず総選挙真ただ中の開催となった大会でしたが、102人の代議員とともに、来賓は埼玉県社会保障推進協議会の段事務局長、全生連の西野事務局長から熱いメッセージをいただきました。

笹井敏子会長は、冒頭のあいさつで「憲法25条の定める社会保障は、長年にわたる労働者、国民が、血のにじむ闘いで勝ちとった基本的権利です。社会保障は、平和と民主主義のもとで成り立つものであり、戦争や軍拡とは決して相容れません。その点でも、『いのちのとりで裁判』が地裁レベルで17勝11敗と連続して国に大きく勝ち越しているのは目を見張る成果であり、国民の勝利と言っても過言ではありません。」と参加者を励ました。

原告の1人として大会に参加した濱田道子さんは76歳で原告になり、「今年で87歳になりました。まだまだ続くとなると、90歳まで行っちゃうのかな。でも、健康に注意しながら、勝利をこの目で確かめたい。皆さんの力を借りて、元気で明るく、裁判を乗り越えていきたい。」と力強い決意を語りました。

「生活保護基準を、物価高騰に見合う額に引き上げよう」などのスローガン、「総選挙で軍拡優先・福祉切り捨ての自民党政治を終わらせよう」の特別決議を採択し、盛会のうちに大会を終えることができました。

総選挙後の28日には、29番目の地裁判決が岡山地裁で下されました。上田賀代裁判長は、「歪み調整に加えてデフレ調整を行った場合の生活扶助基準が、一般低所得者世帯における消費水準と均衡したものかどうかについて適切な検討及び検証が行われていない点で、判断過程に過誤ないし欠落があり、裁量権の範囲の逸脱又はその濫用がある」として、「各処分が違法」という画期的判決でした。全国では名古屋高裁勝訴判決を含め、19勝14敗の状況です。これを力に、全生連は11月7日、厚労省に対して保護基準の引き上げを求める交渉を予定しています。

（埼玉県生活と健康を守る会連合会 事務局長 高藤 登喜恵）

埼玉社保協 第33回総会議案

2025年新年度方針の骨子

(1) 運動の基調と重点

1. 来年の参議院選挙で、軍事費の拡大ではなく、社会保障の拡充を争点とし、住民のいのちと暮らしを守っていきます。
2. 組織拡大のために、地域社保協活動交流会の開催と新たな地域社保協の結成をめざします。
3. 7月に行なう自治体要請キャラバンを成功させていきます。
4. 学習運動を軸に、すべての職場、地域社保協で社会保障拡充の運動と「国税水準の統一」の見直しを求めて地域から運動を広げていきます。
5. いのちと暮らしを守るために、医療、国保、後期高齢者医療、介護、福祉、教育、子育て充実していく運動を積極的に行います。

(2) 2025年度の運動の重点課題

1. 戦争する国づくりから、社会保障を拡充し、国民のいのちと暮らしを守る運動

2. 年間計画を成功させ、社会保障を良くする運動の前進を

- ①新春社会保障学習決起集会
 - ・2025年1月28日(火)18:20～ 浦和コミセン10F
 - 講師 秋山正臣さん(全労連議長)
- ②3月～5月地域社保協活動交流会を計画
 - 県央地域、西部地域、南西部地域を予定
- ③6月～7月 自治体要請キャラバン (7/15～25)
 - 要請団会議(6/12or19)、地域学習会
- ④埼玉社保学校
 - 2025年9月7日(日) 場所:未定 2講座を予定
- ⑤11月 県政要求共同行動
- ⑥12月 第34回総会
 - ・12/20(土) 場所:未定 記念講演&総会
- ⑦国保部会、介護部会の開催

3. 組織拡大

- ① 組織拡大を位置づけ、地域社保協づくりの強化
- ② 地域社保協活動交流会の取り組み
- ③ 運営等の改善に向けて

(3) 各分野の運動と課題

1. 医療の分野

- ・第3期国保運営方針の見直し、撤回を求める運動
- ・地域医療提供体制の拡充と地域間格差をなくす課題

2. 介護の分野

- ・介護保険制度の改悪をストップ、安心して介護が受けられる制度をめざします
- ・介護報酬の大幅引き上げと国庫負担を求めます
- ・訪問介護事業所を守る運動を地域から進めます
- ・国、県の地域包括支援センターへの支援の強化
- ・介護保険料の応能負担を求めます

3. 障害福祉分野

- ・職員の人手不足を早急に改善させる運動
- ・障害者を支える介護職員の所得保障の拡充を
- ・障害のあるすべての人が、安心して「暮らしの場」の保障

4. 子育て・保育の分野

- ・保育士の増員と保育士の報酬を引き上げ
- ・保育所の待機児童をなくすことを求めています
- ・学童保育施設の拡充と正規職員を増やす運動強化
- ・国・県へ子ども医療費の無料化を18歳まで引き上げ

5. 生活保護の分野

- ・国民的な最低生活保障の実現(ナショナルミニマム)を掲げた運動づくり
- ・生活保護は権利として、扶養照会の廃止を
- ・生保基準引下げ違憲さいたま訴訟の勝利
- ・「生活保護の申請は、国民の権利です。」を記載

6. 年金の分野

- ・年金引き下げ違憲訴訟を支援してきます。
- ・最低保障年金の創設と低すぎる女性の年金引き上げの運動を前進させていきます。

※議案に対するご意見を県社保協までよせてください。

2025年

新春社会保障学習決起集会

日時: 1月28日(火)18時20分～

会場: 浦和コミュニティセンター多目的ホール
(パルコ10F)

講演: 「戦争する国づくりストップ、社会保障を守るために」(仮)～労働組合の出番の情勢
全国労働組合総連合 議長 秋山 正臣さん

～参加費無料～

第33回埼玉社保協総会

日時 12月21日(土) 10時～16時

会場 さいたま共済会館601

(受付9:30～)

10時～記念講演

「日本が進むべき社会保障とは」(仮称)

講師 柴田 泰彦 会長

13時～ 総会

～お弁当1,000円～

申込用紙にて注文をお願いします。

締め切り12月11日(水)

地域社保協の運動報告、加盟団体の活動報告など活発な発言をお待ちしています。